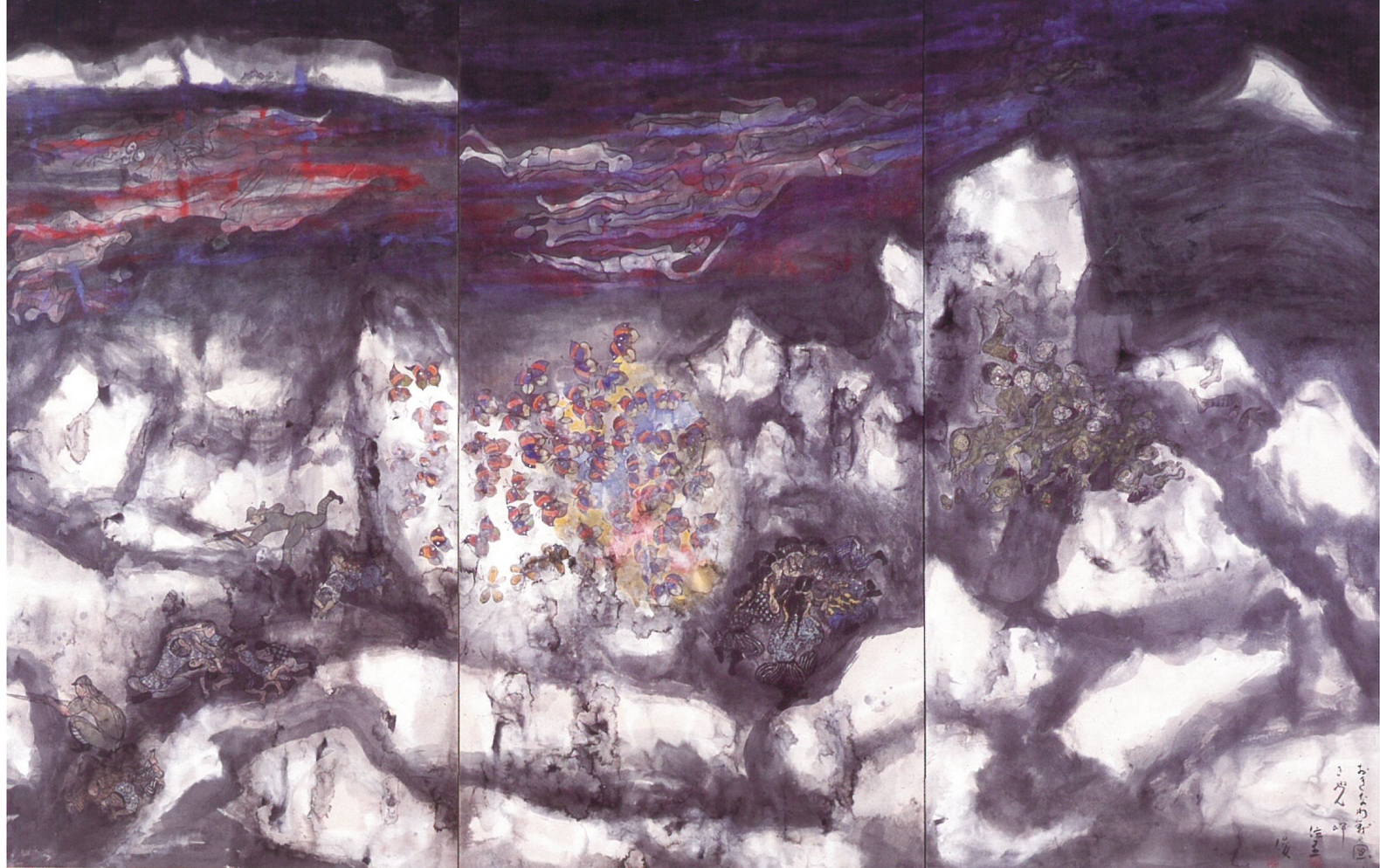


丸木位里生誕 120 周年記念

丸木位里・丸木俊  
命どう宝

# 沖縄戦の図 全14部展



沖縄戦—きゃん岬 (1986年)

2021年

2022年

6/17 [木] ▶ 1/17 [月]

会期中に一部展示替えがあります

## 展示作品

沖縄の図[八連作] (1983年)

久米島の虐殺(1)/久米島の虐殺(2)/亀冢  
自然壕(ガマ)/喜屋武岬/集団自決  
暁の実弾射撃/ひめゆりの塔

沖縄戦の図(1984年)

沖縄戦—きゃん岬(1986年)

沖縄戦—ガマ(1986年)

沖縄戦[読谷三部作](1987年)

チビチリガマ/シムクガマ/残波大獅子



読谷村三部作 残波大獅子(部分)

佐喜真美術館



丸木位里《けらま列島》1983年

命どう宝  
丸木位里・丸木俊  
沖繩戦の図  
全14部展

## 鎮魂の集大成《沖繩戦の図》

広島に原爆が投下され、人類が初めて体験した核爆発の凄絶さを三十年以上にわたり《原爆の図》全15部に描き、世界に発信し続けた丸木位里(1901-1995)、丸木俊(1912-2000)。

位里81歳、俊70歳の晩年になって取り組んだのが地上戦を体験した沖繩戦です。6年の歳月をかけて制作された《沖繩戦の図》14部は、山脈のようなふたりの画業の集大成となりました。

《沖繩戦の図》の連作が他の共同制作と決定的に違うのは、沖繩の人びとが丸木夫妻の前で証言をし、モデルになり沖繩の「現場」で描いたことです。地上戦を知らない私たちは沖繩の人たちから学ばなければならない、と慶良間諸島、沖繩島、久米島、伊江島とそれぞれの現場と人びとを精力的に訪ね歩きました。

「沖繩はどう考えても今度の戦争で一番大変なことがおこつる。原爆をかき、南京大虐殺をかき、アウシュビッツをかいたが、沖繩を描くことが一番戦争を描いたことになる」(位里)、「これは私達と沖繩の人たちとの共同制作です」  
「戦争というものを、簡単に考えてはいけません。日本が負けた、アメリカが勝ったということではなく、一番大事なことがかくされて来た、このことを知り深く掘り下げて考えていかなければなりません」(俊)

丸木夫妻の「人間といのち」への深い鎮魂と洞察、また地上戦を生き延びた沖繩の人びとの、どんなことがあっても生きなさい、という「命どう宝(命こそ宝)」への決意が込められた連作14部をぜひご鑑賞ください。

沖繩の図八連作(1983年)より



久米島の虐殺(2)



暁の実弾射撃



亀甲墓



喜屋武岬

NHKEテレ「日曜美術館」で丸木位里・丸木俊の「沖繩戦の図」と佐喜真美術館が特集されます。

お知らせ

丸木位里・俊『沖繩戦の図』  
一戦争を描いてここまで来た・佐喜真美術館  
放送 6月20日 午前9時～

## 佐喜真美術館

開館時間 9:30～17:00(火曜休館)  
入館料 大人 800円(730)  
大学生・シルバー(70歳以上) 700円(630)  
中高 600円(540) / 小人 300円(200)  
※( )内は20名以上 団体料金  
※障がい者割引あり



〒901-2204  
沖縄県宜野湾市上原358  
TEL 098-893-5737  
FAX 098-893-6948  
<http://sakima.jp/>